

平成23年度

かがわ農商工連携ファンドの支援対象事業が決定しました！

(公財)かがわ産業支援財団では、平成23年度かがわ農商工連携ファンド事業について、4月25日から6月3日まで募集したところ、10件の申請があり、審査委員会での審査の結果、次の8件の支援対象事業を決定しました。

採択した案件については、8月19日(金)財団において認定書の授与式を行います。
採択した事業テーマは以下のとおり。(詳細は別紙参照)

平成23年度かがわ農商工連携ファンド支援対象事業

1. 小豆島オリーブ生そうめんの開発
2. 高校生の開発した金時ニンジンとミカン飲料の商品化
3. 小豆島沖獲れ鮮魚を使った惣菜の開発と販路開拓
4. 香川県産鴨肉「綾鴨」のブランド化と綾鴨を使った新商品「骨付き鴨」「鴨弁当」の商品開発、販路開拓
5. さぬき市のおもたせ ぶどうの森のスイーツ開発
6. 情報通信技術を活用した圃場別農作物栽培管理および原価管理システムの開発と普及
7. 伊吹いりこや地魚等を使った新商品「うららのせんべい」の商品開発と販路開拓
8. 香川県産ひのき材を活かした新商品「F+Fカスタマイズ家具」の開発及び販路開拓事業

1. 平成23年度かがわ農商工連携ファンド事業認定書授与式

日時：平成23年8月19日(金) 14:00~

場所：公益財団法人かがわ産業支援財団 2階一般研修室

〒761-0301 高松市林町2217-15 香川頭脳化センタービル

2. かがわ農商工連携ファンド事業

1) 助成対象者

中小企業者と農林漁業者の連携体

(中小企業者は県内に本社又は事務所等が所在する者、農林漁業者は県内に生産拠点のある者)

2) 助成対象事業

中小企業者と農林漁業者の連携体が行う新商品及び新サービスの開発並びに販路開拓事業

3) 基本的要件

・中小企業者と農林漁業者が連携し、互いの経営資源を活用して、当該連携体にとって新しい商品やサービスの開発並びに販路の開拓に繋がること

・連携事業を通じて、中小企業者と農林業業者それぞれの経営の改善が見込まれること

4) 助成率、助成額

助成金は、助成対象経費の3分の2以内であって、50万円以上500万円以下

5) ファンド拠出者

独立行政法人中小企業基盤整備機構、県、株式会社百十四銀行、株式会社香川銀行、香川県信用農業協同組合連合会、高松信用金庫、観音寺信用金庫、香川県漁業協同組合連合会、香川県信用組合、香川県信用漁業協同組合連合会

テーマ	概要	事業者		採択額
小豆島オリーブ生そうめんの開発	<p>中武商店は、小豆島唯一の生そうめん製造業者であり、うどん用小麦「さぬきの夢2009」が品質分析からそうめん加工に向くことが判明したため、生そうめんの活用を考えていた。また、安田オリーブ研究会は、オリーブの栽培と搾油研究を活発に行っている。</p> <p>この両者が連携し、高品質で低価格のそうめん加工用オリーブオイルの製造と、そのオリーブオイルを使った「100%小豆島産原料」の生そうめんを開発する。</p>	中	株式会社中武商店 (小豆島町)	4,132 千円
		農	安田オリーブ研究会 (小豆島町)	
高校生の開発した金時ニンジンとミカン飲料の商品化	<p>香川県農協観音寺ニンジン部会では、抗酸化作用に優れた「リコピン」の含有率が高い金時にんじんの規格外品を生かすため、讃岐缶詰と連携し、当初、高校生が産地実習にて開発した金時ニンジンとミカンの配合飲料の商品化を目指す。</p>	中	讃岐缶詰株式会社 (三豊市財田町)	1,587 千円
		農	香川県農協観音寺ニンジン部会 (観音寺市植田町)	
小豆島沖獲れ鮮魚を使った惣菜の開発と販路開拓	<p>数量が安定しない等、市場で評価されにくい小豆島沖の水産物や島の農産物を有効に活用するため、山一商店が簡単便利な「小豆島ブランド」の惣菜の試作開発、山口水産が原材料の提供及び一次加工状態での保管方法の構築を行う。県内外及び首都圏の一般家庭を主なターゲットにし、見本市(シーフードショー)への出展や、インターネットによる告知などにより、販路開拓を行う。</p>	中	株式会社山一商店 (土庄町)	1,993 千円
		農	山口水産 (土庄町)	
香川県産鴨肉「綾鴨」のブランド化と綾鴨を使った新商品「骨付き鴨」「鴨弁当」の商品開発、販路開拓	<p>香川県合鴨水稻会では、合鴨農法に使われる合鴨飼育が盛んであるが、安定的な供給が課題であった。一方、スエヒロ銀波亭では、主に県外産やフランス産の合鴨肉を使用していたが、地元産合鴨を扱いたい意向であった。</p> <p>このことから、合鴨の飼育方法を統一し、肉質を均一化することで安定供給を図り「綾鴨」としてブランド化し、スエヒロ銀波亭において「骨付き鴨」「鴨弁当」を商品化し、県外見本市などで販路開拓を行う。</p>	中	有限会社スエヒロ銀波亭 (高松市花園町)	2,405 千円
		農	香川県合鴨水稻会 (綾川町)	

(別紙)

※中：中小企業者、農：農林漁業者

テーマ	概要	事業者		採択額
さぬき市のおもたせぶどうの森のスイーツ開発	多田康二氏は、高品質のぶどうを生産する一方で、房から実が落ちたものや形が悪いもの等、規格外品の有効活用を模索していた。アイナ・ふろーりあん(ケーキ店)では、ぶどうを使ったスイーツの旬の時期以外の提供を検討していた。 そこで、徳島文理大の協力を得て、ぶどうの粉末化に取り組み、冷凍流通が可能なチーズケーキ等を開発し、おもたせ(手土産)として利用できる商品の開発を行う。	中	アイナ・ふろーりあん (さぬき市志度)	2,130 千円
		農	多田康二 (さぬき市志度)	
情報通信技術を活用した圃場別農作物栽培管理および原価管理システムの開発と普及	大半の農家においては、圃場管理や作業員管理、栽培管理などがシステム化されておらず、非効率的な運営を行っていた。そこで、ビットコミュニケーションズが情報通信技術を活用した圃場ごとの栽培記録管理と原価管理システムを開発し、石川農園が運用効果を実証することにより実用化を図り、農業生産法人への普及を図る。	中	株式会社 ビットコミュニケーションズ (高松市川島東町)	2,359 千円
		農	有限会社石川農園 (観音寺市大野原町)	
伊吹いりこや地魚等を使った新商品「うらのせんべい」の商品開発と販路開拓	伊吹漁業協同組合では、「伊吹いりこ」を地域ブランド化し、普及推進している。満久屋は「あいむす焼」のノウハウを活かし、新たな煎餅の開発を模索していた。 そこで、「伊吹いりこ」を中心に、テンジクダイやあさり等を使った煎餅を開発し、地元イベントや県外物産市、見本市などに出展し、販路開拓を行う。	中	有限会社満久屋 (観音寺市観音寺町)	1,139 千円
		農	伊吹漁業協同組合 (観音寺市伊吹町)	
香川県産ひのき材を活かした新商品「F＋Fカスタマイズ家具」の開発及び販路開拓事業	ホットワークスタジオは、香川県産木材を使った家具の構想を練っていた。一方、香川県森林組合連合会は、家具製造には不向きな樹齢40年から50年のひのきの間伐材の利活用を研究していた。 そこで、香川県産ひのきの間伐材集成加工を活かした新商品を開発し、全国規模の展示会や地元展示会へ出展し、販路開拓を図る。	中	有限会社ホットワークスタジオ (高松市中新町)	5,000 千円
		農	香川県森林組合連合会 (高松市中野町)	